

## 熊本地震における災害対策本部会議の主な参加者一覧

役 職 名		氏 名
本部長	市長	大西 一史
副本部長	副市長	高田 晋
		植松 浩二
本部員	危機管理監	守田 誠治
	政策局長	古庄 修治
	総務局長	多野 春光
	財政局長	宮本 邦彦
	市民局長	西島 徹郎
	健康福祉局長	池田 泰紀
	環境局長	中村 英文
	経済観光局長	石櫃紳一郎
	農水局長	西嶋 英樹
	都市建設局長	肝付 幸治
	議会事務局長	田上美智子
	教育長	岡 昭二
	消防局長	中村 一也
	交通事業管理者	西本 賢正
	上下水道事業管理者	永目 工嗣
	病院事業管理者	高田 明
	中央区長	萱野 晃
	東区長	中原 裕治
	西区長	白石三千治
	南区長	田畑 公人
北区長	野口 恭子	
本部長が指名する者	政策局総括審議員	村上 徹
	政策局復興部長	井上 隆
	政策局危機管理防災総室長	小原 祐治
	政策局危機管理防災総室首席審議員	池野 秀博
	政策局総合政策部政策企画課長	村上 和美
	政策局総合政策部広報課長	士野 公史
	政策局復興部復興総務課長	原口 誠二
	政策局復興部生活再建支援課長	江 幸博
	政策局復興部住宅再建支援課長	宮崎 由之

※上記の参加者以外にも震災対応業務の状況に応じて、各業務所管局の部長や課長等が災害対策本部会議に参加した。

※本市職員以外にも、関係省庁や熊本県、指定都市市長会、自衛隊、災害ボランティアセンター、ライフラインに関わる民間企業関係者等が必要に応じて参加した。

※役職名は平成 28 年度の所属、役職名を記載。

## ■編集後記

平成28年4月14日と16日に発生した「平成28年熊本地震」は、私たちが予想もしていなかった未曾有の都市直下型の大地震でした。予想どころか、熊本でこのような大きな地震が発生することすら思いもしませんでした。ところが、歴史をたどってみると、熊本でも大きな地震が何度も発生していました。直近では熊本市制が始まった明治22年に発生した明治熊本地震（マグニチュード6.3と推定）がありました。この時の資料を見ると熊本城の石垣は何箇所も崩壊し、何度も強い余震が発生し、その恐怖から市中では大混乱となりました。銀行は一時閉鎖され、多くの市民は露宿を余儀なくされました。また虚言やデマによって多くの市民が新たな災難から逃れるため市外へと逃げだし、街は一時閑散となったことまで記録されていました。しかし、現代の私たちにはそのことは継承されていませんでした。わずか129年前のことですが、記憶の風化が起きていたわけです。

そこで「平成28年熊本地震」を経験した私たちは、この「記憶の風化」という反省を踏まえ、発災から約1年間の本市の災害対応の記録をまとめる作業に取り組みました。この記録誌は、震災という記憶を後世へ継承することはもちろんですが、今後の本市の防災・減災対策にいかすとともに、他自治体においても万一の震災に対する備えにも役立ててもらえるよう編纂を行ないました。

編纂作業は平成28年の秋から取り掛かり、まず記録誌の構成の検討から始め、翌年1月には全庁へ震災対応業務に係る記録資料の提供を依頼しました。そして、それを基に2月中旬から3月末まで各部署の担当者、課長、部長、局長にヒアリングを行い、発災後の取組や刻一刻と変わる状況への対応、困難を極めたことなどを書きとどめていきました。そして、最後に市長、副市長にもヒアリングを行い、発災直後の混乱する状況や被災者への思い、復旧復興に向けた決意等を伺いました。

この震災記録誌には、資料のみでなく、ヒアリングを通じて各部署における対応において困難だったこと、反省したこと、震災対応における新たな気づきなど多くのことを盛り込むことができました。地域の防災力を高めていくためには、このような一つひとつを積み重ねていくことが大切だと改めて思いました。自治体関係者はもちろん、地域を担う市民の皆様にもお読みいただきたいと思えます。

最後になりましたが、この編纂作業に当たって各方面から多くの資料のご提供を受けました。ここに改めて深くお礼申し上げます。

---

# 平成28年熊本地震 熊本市震災記録誌

平成30（2018）年3月 発行

編集 熊本市都市政策研究所・政策局復興総室

発行 熊本市

〒860-8601 熊本市中央区手取本町1番1号

印刷 敷島印刷株式会社

---